

旅と自然を愛した歌人「若山牧水」

食欲の秋、読書の秋、色々な秋がありますが、今年は芸術の秋を深めてみませんか？美術館巡りをしても良いですし、秋晴れの空のもと、風景画を描いたり紅葉の写真を撮ったりするのもこの時期は楽しいですね。今回は、宮崎県出身の歌人で、生誕140周年を迎えた若山牧水を紹介します。

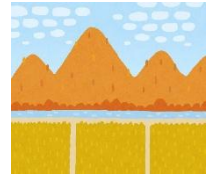


若山牧水は明治18年、宮崎県東臼杵郡坪谷村（現 日向市東郷町）に生ま

れました。本名は若山繁^{わかやましげる}ですが、19歳の時に牧水と名乗るようになりま

した。牧水の「牧」は母親の名前、まきを漢字に直したもので、「水」は生家の周りの^{たに}溪や川の水からとったそうです。中学2年生の時に初めて短歌を詠み、以来、在学中に500首を超える短歌を新聞や文芸雑誌に投稿しました。早稲田大学に進学後も短歌の腕を磨き、卒業後、歌集「海の声」を出版しましたが売れ行きが悪く、新聞記者として働き始めました。その新聞社も半年ほどで退社してしまいましたが、翌年の1910年に「別離」を刊行、この歌集は歌壇だけではなく広く注目を集め、歌人として牧水の名前は有名になっていきます。歌人としての成功をおさめても、牧水は自然を求めて旅を続けました。旅について詠んだ代表作の一つをご紹介します。

^{いくやまかわ}幾山河越えさり行かば寂しさの終てなむ国ぞ今日も旅ゆく



現代語訳「いくつの山と川を越えてゆけば、この寂しさの消える国にたどりつくのでしょうか。その地を求めて今日も旅に行くのです」

牧水は43歳で健康を害し、その生涯に幕を閉じるまで14の歌集を出版しています。牧水の遺骨は分骨され、母「まき」が亡くなった際、その胸に抱かれ埋葬されたそうです。

宮崎県には牧水の名を冠した公園もあります。記念館も併設されているので、牧水の事をもっと知りたい方は是非訪れてみてください。

このコーナーへのご質問、ご意見、ご要望は：（公財）宮崎県国際交流協会まで

TEL：0985-32-8457 FAX：0985-32-8512 Email miyainfo@mif.or.jp

毎日の生活に関してご質問、ご心配事などありましたら：みやざき外国人サポートセンターまで TEL：0985-41-5901 FAX：0985-41-5902 Email support@mif.or.jp